

久米又三

(1) アンドレ・モロワ フレミングの生涯

新庄・平岡訳 新潮社 定価三一〇円

ベニシリン発見者フレミングをモロワが描き出した伝記である。近頃読んでこれほど感銘をうけた本はすくない。口数がすくなく、虚飾のない、しかも幸運なフレミングの人柄がよく描かれている。こせこせしたいわゆる「科学教育」の被害をうけないで、しかも、天からベニシリン発見の贈り物をえた彼の人柄を私に限りなく愛する。

(2) 駒井卓 ダーウィン—その生涯と業績

培風館 定価三三〇円

ダーウィンもフレミングとよく似ている。正直で謙虚で暖かい人柄であり、ただ正直に自然を探究して進化の理法を悟った。駒井先生の筆がよく彼の人柄を描いている。この本も一読をすすめたい。

鍋島能弘

(1) C・ファティマン 一生の読書計画

刘田元司訳 荒地出版社刊 定価三〇〇円

昔から計画的に読書を指導する書物はあまり多くないが、なかでもこれは教養のための読書の手引として良書である。

(2) ゴードウエル 廿世紀作家の没落(上・下)

増田義郎・平野敬一訳 ダヴィッド選書

ダヴィッド社 定価一六〇円

現代文化とイギリス作家に関する鋭い批判を下したものである。また今日の平和主義とそれへの抵抗を論じたものとして興味ある著作とみられる。

(3) 井上政次 関東古寺

角川文庫 角川書店 定価八〇円

これは長年仏教芸術の研究者であった著者が、深大寺を始めとし古寺を中心に、仏像鑑賞の跡を述べたもの。静かに安置されたそういう仏像への崇拜と美的観照の態度を教える良書の一つである。

友松あきみち

(1) 福沢諭吉 福翁自伝

幕末から維新にかけての日本の黎明が、著者自身の豊かな経験を通してよくわかるばかりではない。ユーモアがあつて興味深い断片が、偉大な人柄とからみあつて誠におもしろい。それが、現代に生きるものの指針ともなっている。くりかえし読んでよい本である。

(2) トルストイ 戦争と平和

時代の変転の中で人生というものがどんなにゆすぶら

れ、変えられていくか。「戦争と平和」はそうした大きな意味で人生をとらえている偉大な作品である。こうした大部のものを読み通すという気力も大切なことで、読み通しはじめ、この作品の偉大さも理解できる。

松村康平

(1) 乾 孝 児童心理学入門

新評論版 定価二二〇円

この本は、児童心理学を専攻した著者と、保母さん先生がたとの共同作業を基盤としており、心理学を教育実践の中に生かし、そのはねかえりで心理学自体もふくらむような使い方を、示している。

(2) 兼子宙編 家庭の人間関係 —— 明るい家庭の設計 ——

大日本図書 新書版 定価二〇〇円

心理学入門講座（全八巻）の一つ。家族のもつ役割、幸福な結婚・不幸な結婚、夫婦間の葛藤、家族の人間関係、はたらく家族の人間関係、家庭の消費生活などが、述べてある。

(3) 牛島義友 西欧と日本の人間形成

金子書房 定価八〇〇円

道徳教育に関する比較教育総合研究心理班報告（九大）である。第一部、人間形成の条件（幼稚園・保育所の保育

が含まれている）。第二部、青少年の人間形成（幼児の人物画による性格の比較、西欧と日本の児童の態度などが含まれ、世界の人は一つの心になれるかという叙述で結んである）。

坂元彦太郎

(1) 文部省 視聴覚教材の利用

学習研究社 定価一二〇円

これは小学校・中学校の、学習指導要領に準拠して、さらにそれを布延した「指導書」であるが、幼児教育者にとっても役立つところが少なくないであろう。文章もまず平明でわかりやすいが、普通の本屋では手に入りにくいのが、難点といえはいるであろう。一覧をのぞみたい。

(2) パッペンハイム 近代人の疎外

岩波書店 定価一〇〇円

この題名はわかりにくいかも知れないが、近代においては、人間がだんだん人間以外のものにならされる傾向があり、そうした非人間化の傾向を、「人間の疎外」といつているのである。マルクスとジンメルの説にもとづいて、明快に、分りやすく論が進められていて、手頃な読みやすい新書版である。

(3) カッシーラー 人間

岩波書店 定価三〇〇円

岩波現代叢書の一冊であって、決して読みやすい本ではないが、このくらいの本に取っ組んで汗をながすことは、頭の鍛錬にとっても、教養を深めるためにも、いいことではなからうか。人間の文化に対する根本的に深く広い理解を、非常に新しい角度から提供してくれる。珍らしい哲学書である。

津守 真

(1) 口語訳旧約聖書

日本聖書協会発行

私は時間があるときには旧約聖書の物語をよむのが一番たのしみです。その中にはさまざまな人間の生活と苦悩と喜びとが書かれています。何度くりかえして読んでもおもしろく、人間に対する理解を深めてくれます。最近私は旧約聖書に関連して二つの興味深い文章をよみました。一つは、トーマス・マンの「ヨセフとその兄弟」(新潮社、全四巻)という小説です。これは精神分析の観点から創世記にあらわれる人物の生涯を描いた雄大な長編です。マンはこれを書くのに十六年かかったといわれ、当時の風習をそのままに再現するために自らパレスチナやエジプトに住んだといわれています。一人の幼児ヨセフの成長が物語の主題ですが、一人の子どもが生まれるにいたるまでの両親の恋の物語、さらに遡って曾祖父の物語にまでおよび、そして母親ラケルの死という、子どもへの生い立ちの背景を記すだけに一巻を費しています。

子どもの存在の意味ということを考えさせられました。

もう一つはいまエルサレムで行なわれているアイヒマンの裁判のことです。私は新聞の報道と犬養道子が週刊朝日に寄せている記事をいくつか読みましたが、ユダヤ人たちがこの裁判を世界的な裁判という意味はどこにあるのかと考えました。検事の論告は旧約聖書の申命記の朗読にはじまり、他方弁護側は、ユダヤ人は報復思想をすてにすてたはずだと論じています。日本は世界中でユダヤ人問題をもたない唯一の国といわれているように、ユダヤ人のことについては関心がうすいですけれども、これは世界史の中で重要な役割を果し、また現に果しつつある民族です。私も現代のわれわれの生きている歴史を理解するために旧約聖書を学ぶことは必要だと思えます。夏の暑いときにひっきりかえってよむのに最適の書物としておすすめします。

(2) 倉橋惣三 子供讃歌 フレーベル館 定価二六〇円

幼稚園のことについて考えるのによい材料を提供してくれます。倉橋惣三先生の最後の書物で、自伝風に書かれています。

(3) オーレン・ユーリス 部下の扱い方と指導の仕方

ダイヤモンド社 定価三二〇円

とくに主任や園長の方々に一読をおすすめしたい実際的な書物です。最近、人事管理の面で専門的な知識が進んでいますから、この種の書物を役立てられることをおすすめします。